

# 世界へ飛び出せ！

## 明大生 ー協定校留学日記ー



Vol.14 イタリア・ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学  
水の都での異文化体験

国際日本学部3年  
仲村 怜



通学路の景色



通学に使用する水上バスからの景色

なことも数多くありました。1歩大学の外に出ると、街で会う人たちの間に英語を話す人は少なく、イタリア語でのコミュニケーションが求められました。イタリア語に関しては、最初は私の準備不足もあり、上手くいかないことばかりでした。英語が通じないため、余計な携帯代を取られたり、お店で怒られたり、悔しいことを多く経験しました。

留学を通して気づかされたことは多く、実際に自分が留学生として異国で過ごすことで、日本にきている留学生達と同じ立場を経験することができました。やはり、生まれ育った場所と違うところで生活するのは不安を伴うものですが、そんな中で幸い私は現地の友人たちに恵まれ、生活の面や精神的な面でかなり助けられました。初対面であっても、困っている様子を見ると躊躇なく声をかけてくれた友人たちには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。不安な時に声をかけて助けてくれる、



教会の塔から見下ろすヴェネツィア

私は、2015年9月から2016年7月まで、イタリア北部のヴェネツィアにあるカ・フォスカリ大学に留学しました。水の都と名高いヴェネツィアは毎年約2000万人もの観光客が世界中から訪れ、国際映画祭や、美術の祭典ビエンナーレなど、様々な世界的なイベントが行われる観光地です。

私が留学したカ・フォスカリ大学は、そんなヴェネツィアに校舎を構える国立大学で、1860年頃に商業を学ぶ高等教育機関として創立されました。創立当初から、



雨上がりのサンタ・ルチア駅

または気兼ねなく話せる友人がいるというのは本当にうれしく、彼らにももらった気持ちを大切にしようと思えました。そこで、私もせっかく同じ立場を経験したので、帰国後は自分にできる範囲で、自分がイタリアでしてもらったようなことが出来るようになりたいと考えるようになりました。以前までの私なら、そう考える前に勝手に、自分では大した助けにならないだろうかと考えてしまっていました。それはただの自分への言い訳で、留学先での彼らの

ように、自分から少し声をかけたリ、話し相手になったりするだけでも少しは助けになると、前向きに考えられるようになりました。

留学先で体験したこと、感じたことはまだまだ書き足りませんが、とにかくたくさん大切な出会いがありました。出会いに恵まれた留学にしてくれた友人たち、教授の先生方、事務室の方々、そしてこのような留学の機会を与えてくださった明治大学に感謝し、これからも精進していきたいと考えています。



一緒にコントを行ったメンバー(本人は写真左)

対アジア貿易のために東洋の言語を学ぶ学科がいち早く設置されるなど、外国語教育に力を入れてきた大学です。現在は特に日本語を含む東アジアの言語教育に力を入れており、それは私がこの大学に留学しようとした大きな理由の1つでした。留学の動機の一つに、海外での日本語教育がどのように行われているのか、また、その国の母語がどのように彼らの話す日本語に影響を与えるのかなど、「国外での日本語」を実際に自分の目で見て、体験してみたいというものがありません。日本語で行われる授業のため、単位はもらえないという決まりはありましたが、実

際に日本語教師の方々に連絡し、アシスタントの形で多くの授業に参加させていただきました。また、友人の紹介で日本語学科の大学院の授業にもいくつか参加させてもらうことができました。本やネットで見ただけでなく実際に目の当たりにして非常に多くのことを発見し、学ぶことができました。私は現在、国際日本学部の田中牧郎先生のゼミで日本語学を学んでおり、実際に体験として得たそれらの多くのことが自分の学習に活きているのを感じます。

また、今回の留学まで1歩も日本を出たことがなかったため、初めての海外での生活はやはり大変

### Profile

#### 仲村 怜

Ren Nakamura  
1995年生まれ 沖縄県出身  
国際日本学部国際日本学科3年  
田中牧郎ゼミ所属



誕生日を祝ってもらった際の一枚